

FUJIEDA ROTARY CLUB

Weekly Bulletin

例 会： 毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL：054-641-3321  
事務局： 藤枝市青木1-9-16 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040  
E-mail：club1972@fujieda-rotary.org



メパセコイア  
写真提供：事務局

会長：青島 克郎 副会長：松葉 隆夫 幹事：仲田 廣志 副幹事：増田 國衛

第1789回



2008-2009年度 RIテーマ  
夢をかたちに  
李 東建

<ソング> それでこそロータリー  
<ソングリーダー>山田昭雄君

会長報告

青島 克郎君

大塚博巳君のお母様がお亡くなりになりました。85歳とのことです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

本日は2004-2005年度の国際親善奨学生としてアメリカ留学をされました高塚素乃己(そのみ)さんをお招きしアメリカでの体験談やその後の活動等の卓話をお願いしてあります。

昨日、静岡の浮月桜で3回目の第5分区の会長幹事会が開催され仲田幹事と一緒に出席して参りました。静岡RCの鈴木和夫地区大会実行委員長と大会幹事の志田さんがお見えになりお礼のご挨拶を頂きました。大石ガバナー補佐の公式訪問での各クラブのクラブ協議会の報告書が配布されました。分区内の各クラブの実情や問題点、提案等が詳細に報告されており今後の会員増強に参考になるのではないかと思います。

1月24日に静岡産経会館で開催予定のロータリー研修会への5~6名程度の出席を要請されています。また地区から依頼の会員増強のための情報交換会の開催は当分区ではクラブ協議会報告書を各クラブ毎に研究する事で特に開催はしないということになりました。

当分区の会員増強の現況については静岡RCの7名純増を筆頭に1~2名の純増を果たしたクラブが4クラブ程度有るとのことです。当クラブも何とか年度内には1名以上の純増を果たしたいと思っております。

3月8日に松風閣で開催されますIMの久保田実行委員長がお見えになり300名程度の参加を

予定しているので出来るだけ多くの登録をお願いしたいというご挨拶がありました。

懇親会は徳川慶喜公の住居跡の風情のある大広間で行われ、縁側の外にある宮家から送られたという菊の紋章の掘られた灯籠と大きな池を眺めながら歓談の一時を過ごしました。

さて株価の大幅な乱高下は未だに収まらず不安定な先の見えない状況にあり企業業績の先行き不安も増す一方ですが会社そのものの価値が3ヶ月位の間でいまの株価のように半分またはそれ以下になってしまったとは言えないと思います。株価が以前のように企業の業績とか資産内容によって評価されるのではなく投資家の思惑によって大きく動くようになり賭博性が高くなっているようです。大企業は別として個人にとっては含み損ですからそんなに深刻にならなくてもいずれ会社の価値が株価に正しく反映される日をじっと待つしか無いのではないのでしょうか。

問題なのは企業業績により大幅なリストラが情け容赦なく行われ、株などの投資とは無縁の臨時雇用労働者や契約社員のような弱者に襲いかかっている現実だと思っております。また、正社員に置いても大企業で働く若い人達の中には早朝から深夜まで異常と言えるような勤務形態が多く見られます。次々と国民休日が制定されるなかでそのギャップの大きさを感じざるを得ません。現在のような不安要素の多い雇用形態で愛社精神を持ってといっても難しいのではないのでしょうか。疲弊によりやがては仕事に没頭できない社員が増え日本のお家芸である技術の継承や思いやりのある勤勉さが消え

国際的競争力も失せ、殺伐とした社会になってしまわないかと懸念いたします。ロータリークラブが取り組むべき活動とも無関係ではないような気がいたします。

### 幹事報告

仲田 廣志君

- 地区大会参加のお礼が牧田ガバナーより届いております。
- 12月ロータリーレートがガバナー事務所より届いております。1\$ = 96円
- ロータリーの友事務所より「友」インターネット速報が届いております。
- ザ・ロータリアン誌が届いております。
- 国際ロータリー年次大会参加旅行のご案内が届いております。
- 藤枝明誠高校駅伝・バスケット全国大会出場応援バスツアーのご案内と賛助金のお願いが届いております。

### 出席報告

青島 彰君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
22 / 36 61.11%	25 / 36 69.44%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

青島彰君 大塚君 杉浦君 鈴木廣君  
平君 森下君 飯塚君 板倉君 落合君  
鈴木舜君 仲田晃君 水野君 望月彰君 望月志君

(2)メイクアップ者

鈴木 勝弘君(静岡北)

### ビジター

藪崎 幸一君(藤枝南)

### ロータリー財団奨学生卓話

高塚 素乃己様



このたびは、藤枝ロータリークラブにお招きにあずかり、このように卓話をさせていただく機会を与えていただきまして、ありがとうございます。私は、2004 - 2005年度のロータリー国際親善奨学生として、アメリカニューメキシコ州立大学にてコミュニケーション学を勉強してきました。2年半前に帰国をしまして、現在はそのときに学んだことを生かすべく、現在静岡市にある「国際ことば学院」という日本語学校で日本語教師をしております。今日はそのことについて少し、お話しさせていただけたらと思います。

日本語学校というのは、言葉の通り日本語を教える学校ですので、生徒の多くは外国人です。世界各地から約300名の学生が本校で日本語の勉強をしています。インドネシア、ミャンマー、ベトナムをはじめ、中国、ネパール、インドなどアジアの国々が多くを占めますが、南米、ヨーロッパなどの学生もいます。通常学生たちは、2年間本校に在籍します。その学生たちですが、来日時のレベルは個人個人でまちまちです。日常会話は問題なくできる人たちもいれば、全くゼロというレベルで来る人たちもいます。日本語能力試験という、英検のような日本語の試験が一年に一回ありますが、中国・韓国のような漢字圏の学生は1級を、非漢字圏の学生は2級を目指すのが通常です。できる学生は新聞の社説なども読めるようになります。

この学生たちは卒業後、帰国という人もいますが、そのほとんどは日本の大学、大学院、専門学校へと進学していきます。過去においては、静岡大学、県立大学の学部生、大学院生、信州大学、拓殖大学、常葉大学、静岡産業大学、また県内外を問わず多くの専門学校へ進学していきます。本校は、日本語教育もさるものながら交流活動も盛んに行っております。

校内活動として毎年国際交流会という名のもと、静岡市民文化会館においてスピーチコンテストを行っています。日本語学習の成果を発表する機会として、学生たちは日本生活において日ごろ感じ

ていることをここぞとばかりに強く主張します。テーマは彼らの夢・希望から家族の絆、留學生活について、また外国人から見た日本人のおかしいところなど、シリアスなものからユーモアを交えたものまで多岐にわたります。いずれのスピーチも外国人の視点から見たものですので、毎回気づかされる、考えさせられることがおおいです。

また 2 年に一回「秋の文化祭」といった学校祭を行っています。秋の文化祭の目玉企画は各国のお国自慢です。今年度はミャンマー・インドネシア・ベトナム・インド・ネパールの学生が日々練習を重ね、ステージの上で各国のダンス・歌・衣装・演劇を披露してくれました。一度に各国の人が集まり、このように多様なステージを見られる機会もあまりないかと思えます。スピーチコンテストも、文化祭も一般に開放しており、もちろん無料ですので、皆様もぜひ機会があったら足を運んでいただけたらと思えます。

また、それ以外にも地域で行われている国際交流のイベントに数多く参加させていただいています。ロータリークラブさんからもお誘いを受け、バーベキューなどに参加させていただくことも多いです。また藤枝地区ですと、F & Wさんという民間交流団体の「企画に企画にも多く参加させていただくこともあります。日本に来たからには、多くの日本人と交流をし、日本の考え方、習慣、文化を体験したいと思っている学生は多いのですが、実際はアルバイトと学校の往復の毎日で、残念なことにあまり日本人と交流する機会がないのが実情です。このような形で企画していただけると、学生たちにとっても日本社会に入っていけるいい機会ですし、私たちもこのような形でどんどん日本社会に溶け込んでいってほしいと願っています。

また最近では小中学校からの依頼を受け、学校へと出向き、異文化理解教育のお手伝いをさせていただくことも多いです。つい先日も藤枝市の高須南小学校へ学生 5 名を連れて授業に参加させていただきました。高須南小学校では、カリキュラ

ムの中に英語を組み込んでいるようで、小学生たちは勉強した英語を使い、自分たちとは違う言葉話し、違う文化を持つ外国人留学生に一生懸命話しかけていました。また本校の学生は日本の小学校に入ること、また違った日本社会の側面を見ることができたことを喜んでいました。私たちは日本語学校ですので、彼らの日本語力が向上することを望むのはもちろんなのですが、留學しているからには各国の大使という意識を持って、ぜひ自分の国を紹介し、積極的に自分から何かを発信していく姿勢もとてもぜひ培ってもらいたいと考えているため、こういった機会は非常に重要だと考えています。

こういった活動は、本当に全体の一握りでしかないのですが、本当に多くの方の支援・協力を得て本校が成り立っていると感じずにはいられません。外国人である彼らが、地域社会になじみ、日本生活を円滑に行うのは、彼らの努力だけでは残念ながら不十分なのも現状です。日本人の多くの方の協力と、そして理解があって初めて成り立ちます。本校はその協力と理解のうえに成り立っている学校だと日々感じています。

しかし、日本全体を見渡してみるとそれが浸透しているのはほんの一部にしか過ぎないというのを感じさせられます。つい先日の政府の世論調査では、外国人が増えるということに対し「治安面の不安」を挙げた人たちが 5 割だという記事がありました。また朝日新聞では毎週日曜に「多文化共生への道」と題して、さまざまな問題点を挙げています。単一民族の日本ですから、他民族が自分たちの生活に入ってくることに多少の抵抗を感じるの仕方がないのかもしれませんが、しかしながら、少子化が進む日本において外国人の増加は避けられない道のような気がします。

来る多文化共生社会において、私たちができることは何なのか、その役割を見極めながら、お互いに歩み寄るその手助けしつつ、すべての人にとってより住みやすい社会を作っていけたらと考えています。

交流協会紙、時として新聞などにも掲載していただいておりますので、今後もし本校の記事を見ることがありましたら、ぜひ目を通していただけたらと思います。また、何かをきっかけに何かの形で皆様と本校の学生、学校がつながることがありましたら、ぜひよろしくお願ひします。



最後に、このようにお話させていただく機会を与えてくださり、ご清聴いただけたこと、大変感謝しております。どうもありがとうございました。

(担当／石垣)